

地域のひとと共に

田植え体験学習 豊田小学校

五月十四日（木）よく晴れた日差し降りそそぐ中、豊田小学校全校生十七名による田植えが行われました。児童の祖父でもある塚原さんの田んぼで、横一列に並び泥に足を取られながらも、地域の方や先生方の協力を得て、にぎやかなうちに植え終わりました。



●小泉校長先生

豊田小学校は小規模特認校に指定されており、この地区からでも来ていただくことができます。特色の一つに体験学習があります。学校内での勉強ばかりでなく校外学習を多く取り入れ、視野を広めることもに、実体験から得るものを学び取ってもらえらると思っています。

この田植えも子どもたちにとって良い体験になるでしょう。手足を泥だらけにしながら体を使って植えたものを、収穫祭で食べる。今ではあまり体験すること

一年生女子三名

「幼稚園でやったことはある」「田んぼはドロドロしてグニャグニャ、大きくて深かった」「体操着がどろどろでお母さんが洗濯するの大変そう」

見事に転んだ五年生男子

足が抜けなくて頑張っていたら転んでしまった。お尻の所まで泥んこになってしまい気持ち悪かった。でも六年生でまた挑戦します。

●英語男性教師 アメリカ人

生まれて初めての田植えでしたが、新しい体験ができて良かった。天気も良く泥も気にならなかった。

●記者の感想

暑い日差しの中、頑張った児童たち。長靴が泥から抜けず笑いを誘った先生。泥んこの手足を洗ってくれたり、お赤飯を差し入れてくれた地域の方。

●田んぼの持ち主塚原さん

子どもたちの良い体験になったと思う。いろんなことを体験し、たくましく成長してくれば、米作りの大変さの一端だけでも知り、お米を大事に食べてもらえればうれしい。



(R・K)

矢板公民館で十一年間

盆栽教室の講師を続けている見形昭正さん（七十七歳）にサツキ盆栽についてお話を聞きました。

●きっかけは？

十一才の時（小学三年生）

下校の途中、毎日サツキの手入れをしている老人を見かけて、面白そうだと思い、小枝を挿し芽したのが最初でした。

その後、会社勤めをしながら、盆栽作りを続け、県内はもちろん全国規模の展示会に出品してきました。

●サツキ盆栽は水やり三年と言われますが？

盆栽の中でも特にサツキは十分に水をやるのが大事です。上からまくのでなく、前から後ろから水をかけます。通り一遍の水やりでは、枝や葉の下はすぐに乾いてしまいます。

私が留守にするときは、一〜二日なら家族に頼みますが、それ以上なら友人に頼みます。

また、サツキにはアブラ



『趣味で矢板を盛り上げる』サツキ盆栽 見形 昭正さん

ムシ、ダニ、シンクイムシなど虫がついてしまつので、消毒にも気を付けています。毎月の手入れ法を教える「サツキカレンダー」があるので、サツキを育てている方は参考にするとよいですね。

●出品する目的は？

展示会で入選すれば、専門誌に掲載されます。それを通して全国の愛好家と交流ができます。遠くの石川県や愛知県から我が家に盆栽を見に来て、盆栽談義に花を咲かせることもあります。

●サツキにこだわる理由は何ですか？

展示会に出品できるようにするには、松なら四十〜五十年かかりますが、サツキなら三〜四年で出品できます。

また、スタートがサツキだったので愛着があります。

●上達のポイントは何？

いかにキレイな形を作るかです。そして樹の形と、鉢と花台とのバランスが必要です。旅行中に良い自然樹や古い樹を見かけるとスケッチして

おきます。毎日樹の形を考えて、夢にも見るほどです。そして上達するには何でもそつでしようが、優秀な先生の指導を受けることです。



●盆栽教室の様子は？

現在、生徒数は二千七名で五十代〜八十代の方、外国人の方も一名います。毎月第二木曜日午前九時三十分から正午まで開催しています。

●生徒の皆さんに聞きました

生徒それぞれがサツキ盆栽をおのおの五十鉢は持っています。一鉢一鉢、挿し芽から育て、作っていくます。巻き直しや枝振りを微調整するだけで済んだり、自分が良しとしたものでも、それとは真逆に思い切り切ったり。見形先生は生徒個人個人に向き合っています。盆栽ごとの個性を引き出してくれるのがとても

ありがたいです。

(T・M & M・W)